

Proficiency levels and achievement goals (CEFR 3.9)

言語能力レベルとコースの成績評価との関係

CEFR(2001) Chapter 3, 3.9 の解説

YUKIO TONO (TUFS)

CEFRレベルと試験の成績の関係

- CEFR レベル：一般的な言語能力の尺度を示す
- あるコースでの達成度：CEFRレベル全体的な場合もあれば一部分の場合もある
- B2の判定：2ヶ月前にB1だった人には大きな評価だが、2年前にすでにB2だった人には平凡な評価となる
- こういった相対的な関係だということを理解する必要がある



スケールと異なるテストの対応づけ

- この図はCEFRではなく、架空の例
- Exam 'Y'はスケールのレベル4～5に対応
 - 試験内では3がPASS（合格）：
 - 例：Speaking/Writing テストの評定
- Exam 'Y'の Grade 4 と Exam 'X'のGrade 4は異なる
- 異なる試験 X, Y, Z をスケール上で相対的な位置が決まれば、一定期間データ蓄積・分析を行うことにより異なる試験間での相互参照・対応関係を構築することが可能になる (p.41)
- このためには、共通基準 (common standards)を明確かつ透明性をもって作成し、それを操作定義 (operationalise) する具体例を提供して、それらの尺度化 (scale) を行う必要がある。

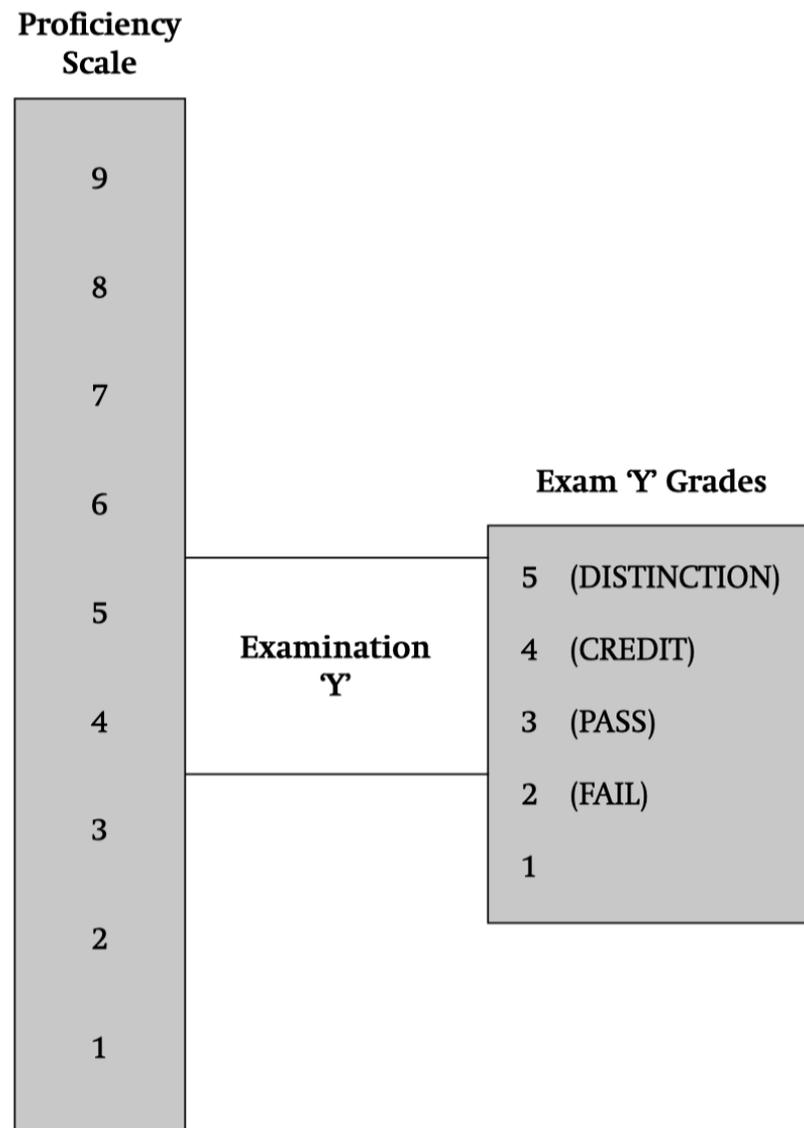


Figure 7

授業における達成度評価

学校内での達成度と言語能力レベルの調査研究の必要性

- 学校での達成度の評価は1-6段階で4（日本では高校では10段階で6が合格が多い）がPASSなど国によって異なっている
- この教員の成績評価と能力は、前述の言語テストと言語能力レベルの関係と同じ
 - しかし厄介なのは基準（standard）が乱立していること
- このような場合でも以下のような累積的（cumulative）なステップで、複数の基準と言語能力レベルの関係を構築していくことが可能：
 - ある目標について異なる評定を与えた場合、その評価基準は何かを記述する
 - 教員がCEFRのような言語能力尺度をもとに平均的な達成度は何かをprofileする
 - 代表的なperformance sampleを集めて、合同評価セッションでラッシュ分析等で尺度化を試みる
 - 基準設定が行われたビデオを見て、教員がどのような評定を普通生徒にしているかを試しにつけてみる

CEFRを用いることで改善が図られる

- 自分たちの関わっている外国語教育システム内で、言語能力の進歩（progress）を記録するために、能力記述レベル一式（a set of profiling levels）を設定する必要がある場合
- ある特定の言語能力レベル内で設けた目標に、試験または教員評価によって、レベル達成した、ということを客観的・透明性をもって証明する必要がある場合
- さまざまな教育機関、言語能力レベル、評価タイプなどが混在している環境で、それらの一貫した対応関係を構築するために共通枠組みが必要な場合